

(様式第4号)

上田市地域クラブ活動推進協議会（第1回） 会議概要

| | |
|-------------|--|
| 1 審議会名 | 第1回上田市地域クラブ活動推進協議会 |
| 2 日時 | 令和5年12月25日 午後7時から午後8時45分まで |
| 3 会場 | 市役所本庁舎 5階 大会議室 |
| 4 出席者 | 池田泰司会長、小林邦朗副会長、齋藤毅委員、佐野正樹委員、清水健範委員、高桑美樹委員、鷹野優子委員、竹田貴一委員、畠山正幸委員、緑川篤委員、宮本恵美委員、飯嶋政泰県東信教育事務所生涯学習課長（オブザーバー）、柿沼宏直県東信教育事務所指導主事（オブザーバー） |
| 5 市側出席者 | 峯村秀則教育長、小野沢和也教育次長、櫻井俊哉スポーツ推進課長、松澤宏スポーツ推進課スポーツ推進担当係長兼交流スポーツ担当係長、小林穰文化政策課長、宮下淳夫文化施策課係長、長田泰幸学校教育課長、加々井道男学校教育課課長補佐兼学校教育担当係長、福澤行雄学校教育課指導主事、松崎知枝学校教育課主査、西原真学校教育課主査 |
| 6 公開・非公開 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 1人 |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和6年1月22日 |

協 議 事 項 等

| |
|--|
| 1 開 会（事務局） |
| 2 教育長あいさつ（峯村教育長） |
| 3 人事通知書交付・委員自己紹介 |
| 4 市出席者自己紹介 |
| 5 会長及び副会長選出 会長に池田 泰司委員、副会長に小林 邦朗委員を委員の互選により選出 |
| 6 会議事項 |
| (1) 国・県の動向報告について ・事務局から資料に沿い、概要を説明 |
| (2) 上田市の現状報告について ・事務局から資料に沿い、概要を説明 |
| (3) アンケート調査集計報告について ・事務局から資料に沿い、概要を説明 |
| (4) 意見・交換 |
| (委員) 教育過程は、学習指導要綱に基づく領域、教育課程外では、学校が計画する領域になるが、部活動は、教育課程外の位置付けにあることの説明を受けたが、学校が計画する領域は部活動の関係性においてどのような領域か。 |
| (事務局) 部活動というのは学習指導要領に基づく教育過程ではないため、必ずしも部活動をやらなくてはいけないということではない。ただし、教育過程と連携して学習意欲の向上や責任感を養う等学校教育にとって大事な活動である。 |
| (委員) 学校が計画する領域の計画というのは、部活動について学校が計画を持つということか。 |
| (事務局) 現在、学校部活動に関しては県教育委員会で「長野県中学生期のスポーツ活動指針」があり、その指針により、学校長がそれぞれの学校に係る部活動の全体計画、年間の活動計画、毎月の活動計画を学校単位で作成するよう求められている。それぞれの部活動の顧問が、年間の行事計画、練習計画等を作成し、学校長が承認している。 |
| (委員) 教育課程・教育過程外とあるが、部活動を大事な学校の活動としてどこの学校も行っている。学校の教員が顧問になっており、当初に活動計画を作成し、顧問会を開く等、授業とは違うけれども、授業と同じような位置づけで今まで行っている。 |
| (委員) 「長野県における運営団体の設立または設定のイメージ」の資料中、ここでは学校の関係にお |

いては「単独」か「集合」かになってくる。そうすると学校が計画する領域とは離れてしまうが、関係ないのか。

(委員) 土日の地域移行なので、学校の土日の部活動をどうしていくかということ、今までは学校の職員が校長中心に決めていたが、今度はそれぞれの地域で、ここで言えば上田市を中心として、どのような方針で活動していくか、計画を立て、指導者を要請し、予算化を含め、地域へ移行する、それが地域移行となる。いずれは平日の活動も地域へ移行するとすると、学校の計画ではなく地域で担っていくようになる。

(委員) 例えば土日だけの活動は部活動と呼んでいいのか。

(委員) 土日の活動は、部活動から地域クラブ活動へ移行することになる。

(委員) 平日は行わないが、土日だけの活動になった場合、部活動として認めるのか。

(委員) 地域クラブ活動として認めていく。

(委員) 学校の部活動として認めるということか。

(委員) 土日については学校の部活動ではなくなる。

(事務局) 地域移行なので、部活動という名前ではなく、学校の介入がなくなるという点で部活動ではなくなるという方針になる。

(委員) 平日一日でもやれば部活動になるのか。

(事務局) あくまでも現行の趣旨がそのまま残るのであれば、学校職員（顧問）が計画を立てて校長がこれは部活動だと認めれば部活動となる。学校の中での活動であれば部活動になるが、平日についてもできるところから部活動ではなく地域移行していきたいというのが今の国の考えになる。

(委員) 上田市のスポーツ少年団はほとんどボランティアで行っている。平日は仕事をしているので土日の活動になる。土日の活動へ、例えば部活動という形では認められないとなると、スポーツ少年団としてどのようにに関われるのかが疑問であり、関われないという可能性もある。

(事務局) 部活動ということではなく、例えばスポーツ少年団だと、土日生徒は学校の部活をやらないのでスポーツ少年団の活動に自由に参加できるというイメージであり、部活動は土日はやらないので代わりに今あるスポーツ少年団の活動に自由に自分が決めて参加できるという形になる。

(委員) 部活動として認めるか認めないかは、子どもたちが大会等に出るときに学校の部活動であれば学校の公用として出場できる。ところが、土日、例えばこれを外部へ移行して大会に出た場合には、学校教育から外れ、公用になり得ない。そういったこともスポーツ少年団の中でもしっかりと伝えなければいけない。子どもたちは一生懸命頑張っている。学校の部活であれば公用で大会に出場できるのに、学校に希望する部活がないから少年団に入っている子どももいる。県大会等あるいは全国大会まで行っても公用になれない。どうなるのか。

(委員) 今年から地域クラブ活動が中学校体育連盟の大会に参加できる。上田市のバドミントン少年団は申請している。今までは学校単位だったが、クラブチームとして出られるようになった。チームについては、スポーツ少年団が運営主体のところもあれば、個人が運営しているところもある。どちらも中体連の大会に参加可能であるが、条件が設定されている。上小は少ないが、県内でいけば80チーム程の団体が今年の大会に参加している。

(議長) 少なくとも休日は部活動としては扱わない。子どもたちの意思で自由に選んでいけるという考え方であり、最終的には平日も含めて学校で部活動は行わず、地域の活動にしていくということで良いか。

(事務局) 大会についてはクラブチームで参加できるが、保険や指導者への謝金、送迎等変わってくる。これについてはクラブ活動に移行した場合の課題ということになる。今まで学校の管理下にあったような保障または経費当然それは別の形になってくるものだと考えていただいて構わないと思う。

(議長) 移行していくことについて、委員はどのような考えを持たれているか。

(委員) 子どもたちがスポーツ関係あるいはクラブ関係いろいろの知識を広めていくという部分に関しては、しっかりとやっていかなくてはいけないと充分に感じている。ただやり方が現状の状況とどうやったらそれがうまく擦り合わせることができるのかということが一番心配している。

(議長) 当然出てくる課題。今後の検討で大事な点。その他の団体でも同じような課題がある。ご意見等をいただきたい。

(委員) 真田スポーツクラブは、真田中学校と部活動の連携をしている。真田中学校の部活動に対する教育方針に従って、真田中学校と真田地域教育事務所・真田スポーツクラブそして保護者会がそれぞれの立場でサポートをする形で平成20年頃から連携活動を続けている。クラブの現状も厳しいが、元々真田地域というところは地域の指導者が地域の子どもたちを育てるという方針がある。みんなで協力して子どもたちの活動を見守っている。今は学校の先生にも時間外にはクラブの指導者ということでクラブ指導者会員になってもらっている。移行ということではなくて、まずは融合をというところから少しずつ移行していくというのが保護者の皆さんからも理解が得やすい。この推進計画を進めていく中でコーディネーターが必要だが、令和6年度県からの予算は市町村から要求しているのか。

(事務局) 市の方向性を決定する実施計画における「項目計上」の査定結果や不確定な要素があること等から、令和6年度当初予算においてコーディネーター費用は予算要求していない。

(委員) このコーディネーターにどれくらいの熱量があるかで子どもたちの活動が守られていくので、予算は潤沢にとっていただくよう要望する。

(議長) 大会への参加、それから予算の面でも今後の大きな課題になる。

(委員) 私たちの文化少年団はボランティアで子どもたちの文化活動を支えている。保護者に送迎等とても助けてもらっている。スポーツほど文化活動には力がないものの、地域クラブ活動の枠組みに文化活動も入れてもらいたい。

(委員) 私は将棋団体を運営しているが、今は週に一回土曜日に公民館を借りて、子どもも大人も一緒に活動している。東御市から通っている子どももいて、電車やバスを使って自力で来ている。自立の方法で子どもたちが自分でやりたいことに参加してくるということがこれからは大事だと感じている。

(議長) PTAの立場からご意見はどうか。

(委員) 体育施設の使い方を心配している。今はクラブチームが優先し今使っているような時間帯や大人の社会体育の時間帯もあり、みんなが活動できる状況を作ってもらいたい。

(委員) 基本的に地域移行は賛成する。中学生期を振り返ると、クラスに居場所がなくても部活動が居場所となる場合もあった。アンケート結果を見ると、休みたいと考えるお子さんもいるので、希望を尊重できるよう移行していけたら良いと思う。

(議長) 校長先生からご意見はどうか。

(委員) アンケート結果が衝撃的で認識を新たにしなければならない。スポーツで言えばトップを目指す人と楽しみたいという人では全く違うので、それぞれのステージを設けないといけない。学校の方では、子どもたちも保護者の皆さんも全然イメージがまだわいていない。その中で動き始めてしまっているので、できるだけ早く地域移行の方向性を示していく必要がある。

(委員) 楽しめる部分と競技力の向上については、二本立てでやっていく必要がある。

(委員) アンケート結果を見て驚くのと同時におそらく一生懸命やっている生徒と保護者の声が非常に強く、ゆっくりしたいという生徒の声が小さい。アンケート結果と実際のギャップは我々がうまくコントロールしていく必要がある。

(議長) 各団体や立場で様々なご苦勞をいただいていることが分かった。それを理解できた点は良かった。子どもたちの思いや、自分で決めていくということを大事にし、これからは皆さんに伺っていく。今後活動していく上で、課題もあるし、検討もしていかなければいけない点もご指摘いただいた。今説明している部活動から地域クラブ活動へ移行していくという点については子どもを大事にする視点で共通にご賛同いただけたと思う。今後、上田市の部活動の方針の決定をしていく必要があるため、今後の地域クラブの在り方についても考えを整理していく方向で今回はご理解いただいていると認識している。大変貴重なご意見をいただき感謝する。

7 事務連絡（事務局）

8 開 会（事務局）